初恋（はつこひ）（イ）

島崎（しまざき）　藤村（とうそん）

①まだあげ初（そ）めし前髪（まへがみ）（エ）の
林檎（りんご）のもとに見えしとき
前にさしたる花櫛（はなぐし）の
花ある君と思ひ（イ）けり

やさしく白き手をのべて
林檎をわれにあたへ（エ）しは
薄紅（うすくれなゐ）（イ）の秋の実に
人こひ（イ）初めしはじめなり

②わがこころなきためいきの
その髪の毛にかかるとき
③たのしき恋の盃（さかづき）（ズ）を
君が情（なさけ）に酌（く）みしかな

④林檎畠（ばたけ）の樹（こ）の下（した）に
おのづ（ズ）からなる細道は
誰（た）が（イ）踏（ふ）みそめしかたみぞと
問ひ（イ）たまふ（ウ）こそこひ（イ）しけれ

文語定型詩と口語自由詩

昔の書き言葉を用いて表現された詩を**文語詩**、現代の話し言葉を用いて表現された詩を**口語詩**という。また、音数に一定のきまりがある詩を**定型詩**、きまった音数などの規則にしばられない詩を**自由詩**という。

江戸時代までの日本では、詩はおもに漢詩を指していたが、明治時代に西洋の詩を翻訳（ほんやく）する中で**文語定型詩**が生まれた。さらに明治時代末期頃（ごろ）には、話し言葉を用いて自由な音数で表現する**口語自由詩**が広まるようになった。

確認テスト　詩を読んで、問いに答えなさい。

(1) 詩を、使われている言葉や形式、内容から分類したときに、「初恋」に当てはまるものを次から二つ選びなさい。

ア 文語定型詩　イ 口語自由詩
ウ 叙情詩　エ 叙景詩　オ 叙事詩

〔　・　〕

(2) 「初恋」で、初めて恋心を抱いたことがうたわれているのは第何連か。漢数字で答えなさい。

第□連

(3) ――線①「まだあげ初めし前髪」の意味を選びなさい。

ア まだ結い上げたばかりの前髪
イ まだ結い上げたことのない前髪
ウ まだ結い上げたことしかない前髪

〔　〕

(4) ――線②「こころなきためいき」の意味を選びなさい。

ア 思いやりがなく、無愛想なためいき
イ 本心ではない、表面的なためいき
ウ 思わず、無意識についたためいき

〔　〕

(5) ――線③「たのしき恋の盃を／君が情に酌みしかな」に用いられている表現技法として、適当なものを選びなさい。

ア 体言止め　イ 倒置　ウ 対句　エ 比喩

〔　〕

(6) ――線④「おのづからなる細道」とはどのような道か。適当なものを選びなさい。

ア 二人が樹の下で見つけた、自然のままに草で覆われている道。
イ 二人が何度も樹の下に行き来するうちに自然にできた道。
ウ 二人が林檎畠を訪れる以前からあった、昔のままの道。

〔　〕